

2019年1月吉日

株式会社ベネッセスタイルケア
代表取締役社長 滝山 真也

2018年度「介護に関する意識調査」報告

株式会社ベネッセスタイルケアの社内シンクタンク「ベネッセ シニア・介護研究所」(所長:滝山真也)では、2018年8月、株式会社ベネッセスタイルケアが運営する全国の有料老人ホーム等のご入居者とその保証人の方に対して意識調査を実施し、6,000名を超える方から回答をいただきました。今回の調査では、2015年に行った前回調査の「事前に最も知りたかったのは費用に関する情報であった」という結果をふまえ、介護に関わる費用についてさらに詳細を伺いました。主な調査結果は、以下の通りです。

1. 【入居を検討したきっかけ】

半数は「ご家族がご本人お一人での留守番に不安・危険を感じるようになったから」が入居のきっかけ、家庭での介護が難しくなったこともきっかけとなることが多い

2. 【介護費用の財源】

介護費用には、「ご本人の預貯金等」「ご本人の公的年金」を充てるケースが大半

3. 【入居後の家計における変化】

入居後、介護・医療に関する支出は増加、被服・履物費や交際費等は減少

4. 【今後の介護費用負担に対する不安】

今後の介護費用を負担していくことに不安を持つ人が3分の1超

5. 【今後の介護費用負担に対する不安を感じそうな時期】

介護費用については「5年未満に不安を感じると思う」方が5割超

6. 【今後の介護費用負担に対する不安の要因】

不安の要因第1位は「ご本人の預貯金」、第2位は「心身状況の変化に伴う医療費」、3位は「心身状況の変化に伴う介護費用」

7. 【今後の介護費用負担の不安を軽減するために必要な金額】

今後の介護費用負担の不安を軽減するために必要な金額は「月5～10万円未満」が最も多い

<実施調査の概要>

- (調査名) 「2018年度介護に関する意識調査」(有料老人ホーム等の入居者・保証人のご意見)
(テーマ) 有料老人ホーム入居前の状況と入居検討のきっかけ、介護費用について
(方法) 郵送による調査、 選択・記入式 記名自由
(時期) 2018年8月6日発送 2018年8月31日回答期限
(対象) 株式会社ベネッセスタイルケア運営の有料老人ホーム等の入居者の保証人
(2018年7月9日時点) 14,653名 年齢・男女不問
(回答) 6,252名(回答率43%)
(調査内容) ・利用状況(利用者の属性、ホームシリーズ種別(弊社内)および所在地、
利用期間、契約形態)
・入居前の状況(住まい、在宅系介護サービス利用期間、家族の困りごと、
入居検討のきっかけ)
・介護費用(介護費用額、介護費用捻出先、入居後の収入支出変化、
介護費用負担感、今後の介護費用負担不安、費用不安時期、負担不安要因、
介護費用に関わる年金・保険等の利用意向)

【本件のお問い合わせ先】

ベネッセ シニア・介護研究所 事務局(福田)

TEL 03-6836-1075

主な調査結果

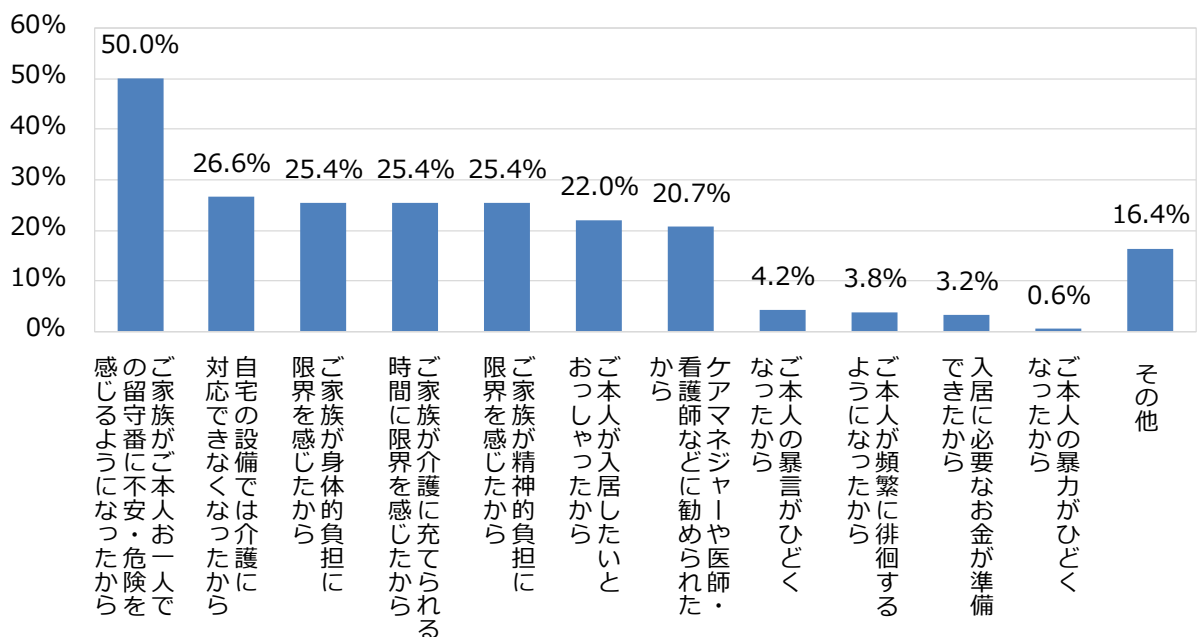
1. 【入居を検討したきっかけ】

半数は「ご家族がご本人お一人での留守番に不安・危険を感じるようになったから」が入居のきっかけ、家庭での介護が難しくなったこともきっかけとなることが多い

入居を検討したきっかけとして最も多かったのは、「ご家族がご本人お一人での留守番に不安・危険を感じるようになったから」で、半数の回答者が理由として挙げていた。それ以外では、「自宅の設備では介護に対応できなくなったから」「ご家族が身体的負担に限界を感じたから」「ご家族が介護に充てられる時間に限界を感じたから」「ご家族が精神的負担に限界を感じたから」という回答がいずれも 25%前後であり、家庭で介護を担っていたものの、それが難しくなったことで入居に至った様子が垣間見える。一方、「入居に必要なお金が準備できたから」という金銭面の理由を挙げた人は 3.2%にとどまり、費用の工面ができたかどうかが入居のきっかけになることは極めて少ないことが示された。

質問：ご入居を検討されたきっかけをお教えてください。（複数回答可）

【入居を検討したきっかけ】



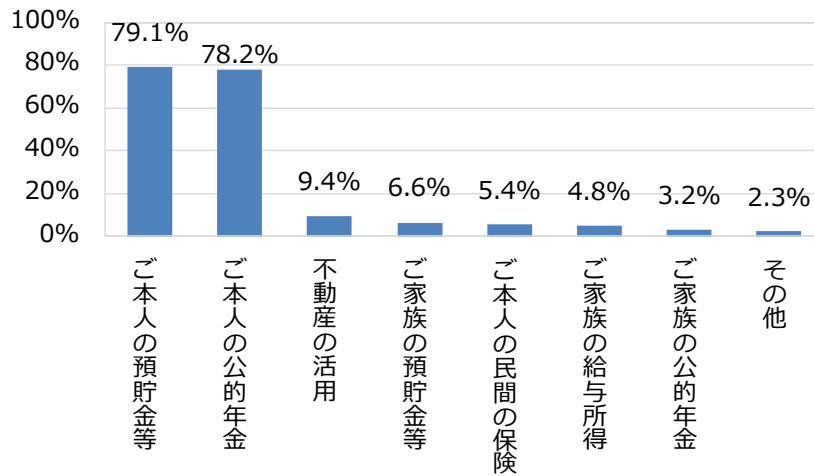
2. 【介護費用の財源】

介護費用には、「ご本人の預貯金等」「ご本人の公的年金」を充てるケースが大半

介護費用をどこから捻出しているかについては、「ご本人の預貯金等」「ご本人の公的年金」を挙げた人がそれぞれ 80%近くであり、この両方を組み合わせているケースが多く見られた。それ以外の回答はいずれも 10%に満たず、ご本人の公的年金や預貯金等と組み合わせているケースが多かったが、中にはご家族の預貯金や給与所得を充てているケースもあり、財源は必ずしもご本人の資産にとどまらないことも示唆された。

質問：介護費用をどのように捻出されているのか、お教えてください。（複数回答可）

【介護費用の財源（各項目の該当率）】



3. 【入居後の家計における変化】

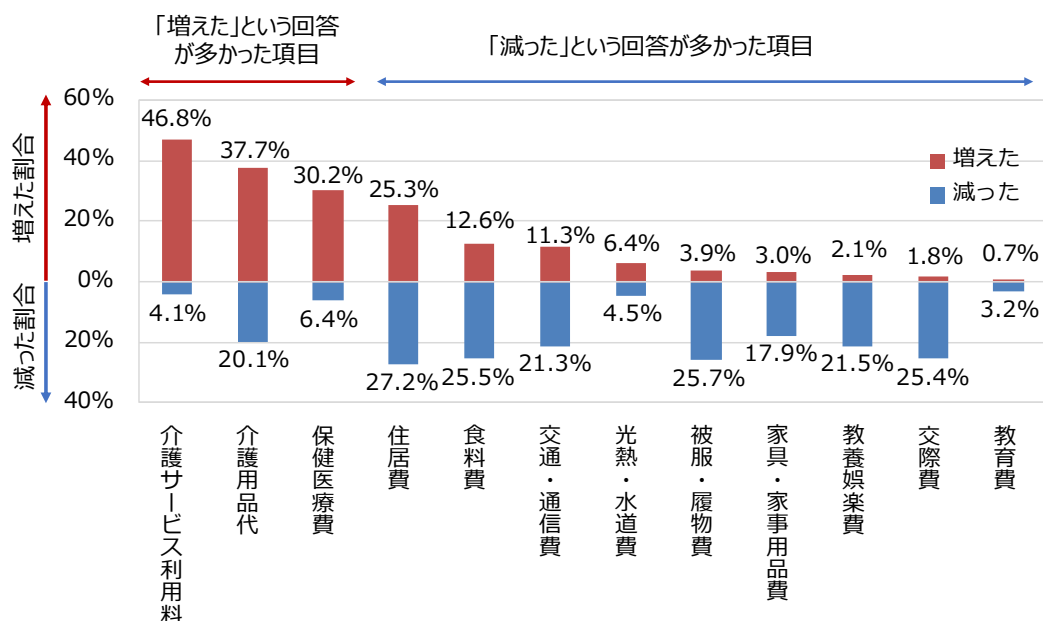
入居後、介護・医療に関する支出は増加、被服・履物費や交際費等は減少

入居後の家計においては、介護サービス利用料や介護用品代、保健医療費など、介護・医療サービスの利用にかかる支出が増えたという回答が多い一方、被服・履物費や交際費等は減ったという回答が全体の4分の1程度を占め、ご本人が老人ホームに入居することで、ご家族の生活も変化する様子が垣間見えた。

質問：ご入居後の家計の収入・支出の変化についてお教えてください。

（それぞれの項目について「減った」「変化なし」「増えた」のいずれかを回答）

【入居後の家計における変化（各費目が「増えた」もしくは「減った」割合を表示）】



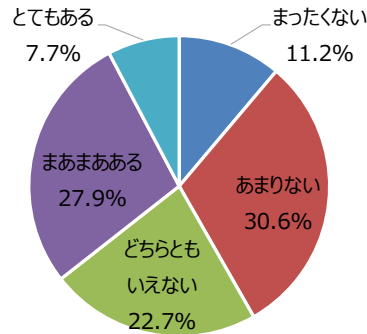
4.【今後の介護費用負担に対する不安】

今後の介護費用を負担していくことに不安を持つ人が3分の1超

今後の介護費用負担への不安が「まあまあある」と答えた人は27.9%、「とてもある」と答えた人は7.7%で、両方を合わせると全体の3分の1を超えていた。

質問：今後の介護費用を負担していくことに不安がありますか。

【今後の介護費用負担に対する不安(全体)】



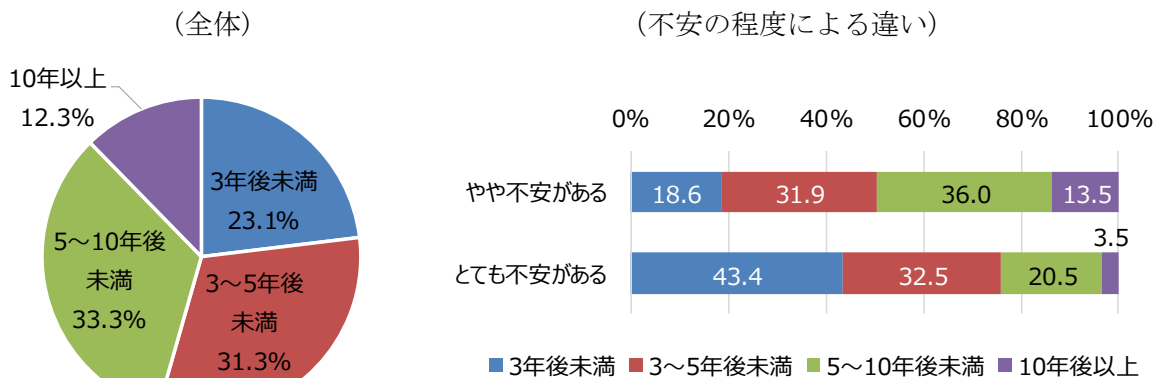
5.【今後の介護費用負担に対する不安を感じそうな時期】

介護費用については「5年未満に不安を感じると思う」方が5割超

今後の介護費用負担に対する不安が「とてもある」「まあまあある」と回答した人に対し、何年後くらいから不安を感じそうかを聞いたところ、「3年後未満」が23.1%、「3～5年後未満」が31.3%で、両方を合わせると半数を超えていた。特に「とても不安がある」人の場合、不安を感じそうなのが「3年後未満」もしくは「3～5年後未満」と回答した割合は全体の4分の3を超えており、不安が大きいかほど不安を感じ始める時期は早まる傾向があった。

質問：(今後の介護費用の負担について「とても不安がある」「やや不安がある」と答えた人のみ)不安を感じそうなのはおよそ何年後くらいからと思われますか。

【今後の介護費用の負担について不安を感じそうな時期】



6.【今後の介護費用負担に対する不安の要因】

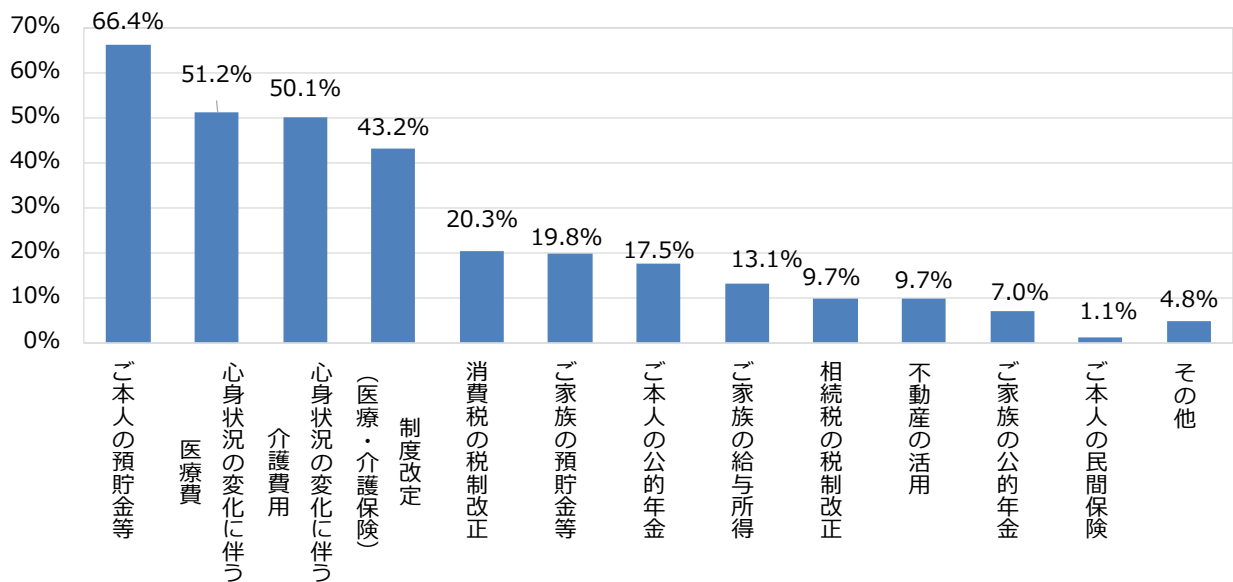
不安の要因第1位は「ご本人の預貯金」、第2位は「心身状況の変化に伴う医療費」、3位は「心身状況の変化に伴う介護費用」

今後の介護費用負担に対する不安があると答えた人に対し、不安の要因を聞いたところ、もっとも多く挙げられたのは「ご本人の預貯金等」で、66.4%であった。2.で述べたように、約8割の人がご本人の預貯金を介護費用に充てていることから、財源確保への不安が見て取れる。

また、心身状況の変化に伴う医療費や介護費用を不安の要因として挙げた人がそれぞれ半数を超えており、さらに制度改定を挙げた人が43.2%いた。これらの要因は、いずれも支出の増加に対する不安であると推測される。

質問：(今後の介護費用の負担について「とても不安がある」「やや不安がある」と答えた人のみ)不安の要因にあたるものをお教えてください。(複数回答可)

【今後の介護費用の負担に対する不安の要因】



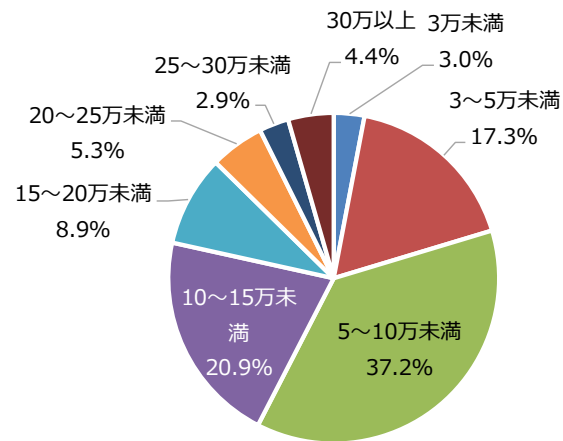
7.【今後の介護費用負担の不安を軽減するために必要な金額】

今後の介護費用負担の不安を軽減するために必要な金額は月5～10万円

今後の介護費用負担に対する不安があると答えた人に対し、月にあといくらあればその不安が軽減もしくは解消されるか聞いたところ、最も多かったのは5～10万円未満で全体の37.2%を占めていた。次に多かったのは10～15万円未満で20.9%、3～5万円未満で17.3%であった。

質問：(今後の介護費用の負担について「とても不安がある」「やや不安がある」と答えた人のみ)
月にあといくらあれば、介護費用負担の不安が軽減もしくは解消されますか。

【今後の介護費用負担の不安を軽減するために必要な金額(全体)】



以上